



Est. 1912

# よこ館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

日頃より、関係する役職員の皆様の献身的な働きにも深く感謝いたします。

昨年は、元日早々の能登半島地震をはじめ、記録的な高温や大雨、台風などの異常気象、戦争や紛争、物価高、インフレ、さらに AI や DX の進展といった要因が急速に進行しました。

このような激動の中でも、私たちの一貫した理念は変わることなく、地域社会に貢献しています。

今年は、中長期計画「新しい明日新たなステージへ 2025 年を目指して」の最終年度にあたり、新たな 2025 年「至誠学舎立川中期経営計画」の策定に取り組む重要な年です。これまでの成果を踏まえ、課題を整理し、新たな挑戦に臨む所存です。

本年も職員一人ひとりの力を結集し、さらなる高みを目指してともにまい進していきましょう。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りを申し上げます。

2025 年 1 月 1 日

理事長 稲永 勝行



### 法人本部事務局より

あけましておめでとうございます。昨年 4 月より法人本部事務局は法人事務局次長と小林の二名体制でございましたが、皆様のご支援により無事に 2024 年を終えることができましたこと、心より感謝申し上げます。2025 年 3 月より新たな法人事務局長をお迎えし、これまで以上に皆様のお力になれるよう尽力してまいりますので本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

2024 年は、各事業本部においてイベントやボランティア活動、至誠まつりチョコッとバザーを通じて、利用者や地域の方々への地域貢献活動が再び行われる年となりました。以前とは異なる形での再開に際し、企画を担当する職員の皆様は多くの試行錯誤を重ねていることと存じますが、パンデミックを経て得た知見を活かし、新たな形での取り組みが進められていることは非常に重要な一歩であると感じております。法人事務局には最新の大型印刷機がございますので、看板作成に関するご相談はお気軽にお寄せください。

さて、お正月が過ぎれば 1 月 29 日（水）理事会での補正予算を皮切りに、3 月の理事会は 2025 年度事業計画、予算、そして 5 月の 2024 年度決算理事会とあわただしい時期に入ります。法人本部事務局から各施設に対し、各種資料のご提出をお願い申し上げますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。決算や新年度体制に向けて忙しい時期となるかとは思いますが、体調管理には十分気を付けて、共にこの時期を乗り越えてまいりましょう。（法人事務局次長 雲野）

## 児童事業本部

今年はコロナ禍の制限から解放され、大空の家でも多くのイベントが再開できた年となりました。夏の旅行、自治会の夏祭り、夏と冬の地域交流会、バザー、クリスマスなど、施設内の行事だけでなく、地域の方々と一緒にする行事も実施することができました。4、5年も実施できなかったことで、子どもも職員も半数近くが未経験の状態になっており、不安が入り混じりながら取り組んできましたが、それでも終わってみれば、生活のグループを超えた施設全体での行事を行うことで人間関係が広がり、大空の家としての一体感が増すような機会となっているように思います。地域の方々も含め交流し、お互いのことが分かることは子ども達の安心感にも繋がります。小集団による家庭的養育が求められる中で個別的な関りや支援を大切にしながらも、集団の中でしか得られないものやグループの良さを活かす支援は子ども達の社会性を育む上でも重要です。コロナ禍のような制限は無くとも感染症対策は怠らないようにしつつ、一緒に美味しいものを食べ、楽しい時間を共有することが円滑に良好な人間関係を深めてくれることに期待して、このような機会をこれからも大切にしていきたいと思えます。

(至誠大空の家 施設長 風間俊秀)

## 保育事業本部

先日、「成長を喜び会」という、子ども達がこの1年で成長した姿をみなさんにお披露目し、お祝いをするという会がありました。

4月にはまだ寝転んで足をばたつかせていた子が、椅子に座って手を挙げて返事をし、昨年は緊張から固まって動けなかった子が、堂々と前を向きセリフを言っている。本当に子どもの持っている力に驚かされ、成長の早さを実感しました。

そして梅丘至誠保育園は、今年5年目を迎えました。気づけば5年目になっていたというのが本音です。子どもの成長と一緒にですね・・・

その間、嬉しいことも、コロナウイルス感染等で悩むことも色々とありましたが“その時出来ること”を念頭に、職員全員で力を合わせ、子ども達の為に全力で取り組んで参りました。これからも、子どもも、保護者も、職員も、そして保育園も生き生きと、共に成長し続けていきたいと思えます。

(梅丘至誠保育園 園長 安田美抄子)

## 高齢事業本部至誠ホーム

昨年末の職員大忘年会での話。一人のフォーリンスタッフが私の席に挨拶に来てくれました。満面の笑顔で「またスキーに連れて行って下さい!」と。そのスキーとは恒例行事であったスキーツアー(職員旅行)です。2020年3月、フォーリンスタッフとして初めてツアーに参加した彼女は、スキーはもちろん雪を見るのも初めてでした。雪上で思い切り楽しんだその夜は、温泉と地酒を共に堪能しました。新型コロナ感染症(以下コロナ)が本格的に日本で拡大したのはそのツアーの直後でした。旅行どころか、自宅からも自由に外出できない非常事態が続きました。コロナが猛威を振るう中、来日したフォーリンスタッフも大勢います。私の職場では2022年4月に初めて3名のフォーリンスタッフを迎えました。異国の地での就職だけでも大変なのに、コロナの異常事態の中での来日、本当に不安だったと思えます。それから2年半、今では現場になくはならない大きな力として大活躍してくれています。彼女たちが目指すのは1年後の「介護福祉士」国家試験。受験生としての新たな1年が始まりました。

(至誠ホーム調布若葉ケアセンター 吉岡 正晶)

(編集後記) 今年は災害や大きな事故がなく、安心して新年を迎えることができました。韓国では年末に飛行機事故があり、中国では年始に大地震が発生しました。世界中で様々な事故が起きています。明日は我が身ということで、日々の生活に気をつけて、2025年も無事に過ごせることを願っております。(小)